

みっつの“わ”

R.7. 2月号 No.10


河内長野市立長野小学校
支援人権部発行


朝起きたら雪景色なんて日があり、寒い日が続いていますが、そんな寒さはものともせず元気よく外に遊びに行く子どもの姿を見るとほっとします。「寒いから外に行きたくない」という言葉を時々耳にしますが、「子どもは風の子元気な子」という言葉が昔からあるように健康であるならば、外で思いっきり体を動かしてほしいと思います。



コミュニケーションの困難さ

子どもたちに何かを伝えたときに、「言ってるのにどうしてわからないの?」「○○って言うてるでしょう。」と、子どもが思うように動かなくていらいらしてしまったことはないでしょうか? もちろん子どもが分かっていることを聞かなかったということもあるかと思いますが、しかし、わざとではなく、相手の言葉の意図がくみ取れずに言われたとおりにできなかったということもあります。そのことを理解していれば、こちらもいらいらしたり、怒ったりすることなく、子どもに分かりやすく伝えることができます。以下は、わかりにくい指示の典型例です。これをわかりやすい指示に変えたら、スムーズに行動できたという人たちがいます。子どももしっかりと聞いているのに、相手の話の内容がよく分からないと、いらいらしたり、不安になったりして、失敗経験を積み重ねてしまう場合があります。そうならないために、わかりやすい表現を心がけられるといいですね。

わかりにくい表現	わかりやすい表現	解説
早くしなさい 	・何時何分までに○○をやってね。 ・(タイマーをセットしながら)○分間片づけて	人は状況から判断して当然だと思うことは省略しやすいですが、できるだけ省略しないように伝える。
もう少し待ってて	・15分間待ってて ・時計の長い針が○になるまで待ってて	「もうちょっと」といった曖昧な表現ではなく、できる限り数値化して伝える
ここで今そんなことしないで	これから夕食だからリビンググループでゲームしないで	「ここ」「そんなこと」のようにこそあど言葉を使わず、具体的に表現して伝える
あとでね	夕食のあとでね	漠然とした表現ではなく、数値化したり具体的に表現したりして伝える
8時にいつものところで集合ね	午前8時に校門の前で集合ね	勘違いしやすい表現は使わず、誤解が生じない言葉を使うようにする

お鍋、見ててね 	お鍋、吹きこぼれないように、火加減を調節してね	勘違いしやすい言葉は使わず、本当にすべきことを伝える
4 日までに提出してください	4 日の金曜日までに提出してください	4 日(よっか)と 8 日(ようか)など聞き間違える可能性意のある言葉は、別の言い方で伝える


誤解を解こう

コミュニケーションの中で、自分の思い込みで勘違いをすることがあります。思い込みには3つのパターンがあるとされています。



- ① 省略…情報の一部分を目立たせて、その他多くの情報は無視すること
- ② 歪曲…偏ったものの見方によって、事実をゆがめて見ること
- ③ 一般化…全体の中のある一部分や1回の体験で、全体や数回の体験すべてが「こうだ」と思い込むこと

思い込みの例を紹介します。

勘違いしやすいこと	誤解を解くためのポイント	確認のための質問
笑われた =馬鹿にされた	「笑われた」からと言って馬鹿にされたとは限りません。あなたに「笑いかけた」のかもしれませんが。	本当にそうだろうか？ ほかに笑った理由はないかな？
あの人は嫌な人だ	あの人のすべてが嫌ですか？インパクトの強い嫌だと思ふ体験からそう思い込んでいるのかもしれませんが。	何で嫌だと思ふのだろう？嫌でないときはないだろうか？
わたしには〇〇ができない 	人から繰り返し言われたためにできないと決めつけていることがあります。本当はできることがあったり、やり方や条件を変えるとできるかもしれません。	いつもできないのかな？ 何かを変えればできないかな？
わたしだけいつも怒られている	「～だけ」「いつも」「みんな」などよく使われる言い回しですが、そう感じているだけで事実は違うかもしれません。	本当に私だけ？ 本当にいつも？

勘違いによって不安になったり、怒りがわいてきたり、トラブルの原因になることもあります。まず、思い込みがないか、「確認のための質問」のように問いかけ、確認してみましょう。また、相手とのコミュニケーションでもお互い勘違いはないか確認してみましょう。コミュニケーションで大切なことは、確認です。わからないことは相手に確認することで、案外いろいろなことがスムーズに進みます。